


スカウト特別海外派遣とは？

- 毎年1回、参加者1～2名の募集
- 実施年度の3年前以内に富士章を取得しているスカウトが対象
- 国と社会的テーマを自ら選択し計画
- 50万円までの金銭的補助




本派遣の概要

テーマ:アメリカ合衆国の事例から考える学校教育の在り方


派遣国:アメリカ合衆国

派遣期間:2月13日～3月6日(24日間)



テーマの決定


- 将来になりたい職業:岩手県立高校の英語教師
→ 学校教育への関心
- 外国語教育(英語)と人格教育(道徳の時間)が変革の最中にある
→ 外国語教育と人格教育に焦点をあてる



派遣国の決定

- その国の第一言語を習得していれば生活に困ることは無く、努力次第で様々なキャリアが視野に入る
- 英語が第一言語として話されており、英語によるコミュニケーション能力を磨ける
- スカウティングが盛んである(、というイメージがある)


⇒ アメリカ合衆国





サブテーマの決定

メインのテーマから派遣国を決めた後、アメリカ合衆国で実施できることとして以下のサブテーマを決定

- スカウト活動の日米比較
- 広大な自然での野外プログラム
- サンフランシスコ大地震の伝承について知る




① ニューヨーク州マンハッタン (2月13日～2月17日)
 ② ペンシルベニア州ランカスター (2月17日～2月19日)
 ③ メリーランド州ボルティモア (2月19日～2月22日)
 ④ テキサス州ヒューストン (2月22日～2月26日)
 ⑤ ヨセミテ国立公園 (2月27日～2月29日)
 ⑥ カリフォルニア州サンフランシスコ(2月29日～3月6日)


サブテーマ①:スカウティング

- 3つの隊と交流⇒どの隊も週に各1回の会議と活動
 ※「部活動」の違い
- 富士章とイーグルのとらえ方の違い
- BSAにはローバー部門は無い
 ※BPSAという運動にはローバー部門有り



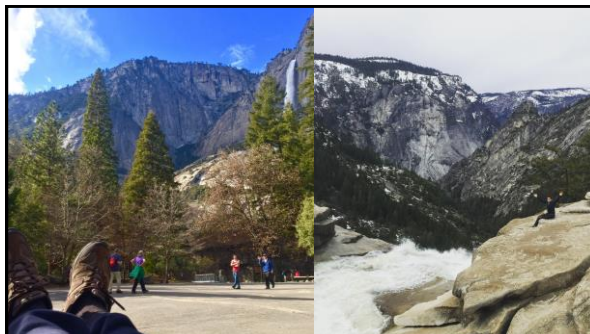

サブテーマ①:スカウティング

- 3つの隊と交流⇒どの隊も週に各1回の会議と活動
 ※「部活動」の違い
- 富士章とイーグルのとらえ方の違い
- BSAにはローバー部門は無い
 ※BPSAという運動にはローバー部門有り



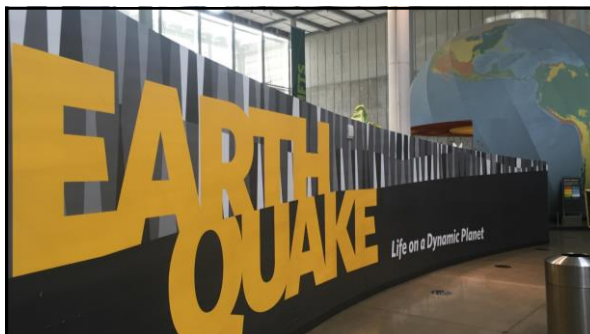
サブテーマ②：野外プログラム

- ヨセミテ国立公園でのトレイル
- 幸運にも、景観が良く人気のコースが到着日からオープン
⇒当初の予定を変更
- 大自然を存分に味わう



サブテーマ③：震災体験の伝承

- サンフランシスコは州南西部のサンアンドレアス断層により地震が頻発する都市(1906、1989)
- 災害に備える＝設備と意識
⇒意識の面に着目、震災体験の伝承はうまくいっているのか



サブテーマ③：震災体験の伝承

- 現地の見学者の様子、ジャパントウンの方のお話
⇒「風化」しているという印象
- 「風化」しないことを個人レベルで求めることの難しさ
⇒地域・組織レベルで取り組む必要がある



メインテーマ: 学校教育

- 公立: 無料、入試無し
私立: 独自のカリキュラム、人種構成
- 中高は教師ではなく生徒が教室を移動
※「クラス」の概念
- IT活用が進んでいるという印象
例)PC活用、授業科目(CG、ロボティクス)



メインテーマ: 学校教育

- 小学校: The Monarch Academy
(ボルティモア、チャータースクール※)
- 中学校: Paul Revere Middle School(ヒューストン、公立)
- 高校: Cocalico High School(ランカスター、公立)
- 大学: LoneStar College at Tomball
(ヒューストン、コミュニカレッジ※)

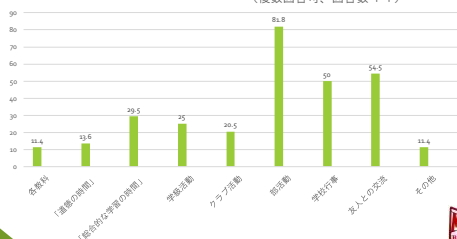


人格教育～道徳の時間～

- 「道徳の時間」の教科化(格上げ)
 - <賛成意見>
 - ・教科化によって質が向上する
 - <反対意見>
 - ・規範意識の押しつけにつながる
 - ・そもそも教科で育成できるものではない



「自分の人格形成に貢献してくれた学校活動として、
どのような活動が思い浮かびますか？」
(複数回答可、回答数 44)



人格教育～アメリカの事例～

- 校長先生へのインタビュー
⇒いずれの学校も実践を含むプログラムを実施
例)地域奉仕
 - 特に公立学校は特定の思想を押し付けてはならない
ということで、人格教育には神経質
- ↑アメリカ合衆国の多様性



人格教育～私の意見～

- 学生の実感にもある通り、人格は特定の教科で育成されるものではない
⇒ ×「道徳」にのみ焦点を当てる
⇒ ◎教師・学校が「人間形成」という学校教育の本来の意義を常に忘れず、全ての学校活動を「人間形成」につながるものになるよう努める



外国語教育

- 日本の「英語」と比べてコミュニケーション能力重視
理由：国際語である英語は多くの生徒が第一言語
※そうでない生徒向けにはESLがある
- 訪れた学校ではPCを活用して効率的に授業を進めていた(リーディング、リスニング、課題など)



外国語教育

- 英語＝国際語
⇒ アメリカ合衆国での外国語教育のようにコミュニケーションにばかり重点を置くことはできない
⇒ しかし、コミュニケーション能力を身に付けさせたい場合にアメリカ合衆国の外国語教育の方法は参考になる



外国語教育

- Cocalico High SchoolでもPaul Revere Middle Schoolでも、外国語の授業ではその外国語を用いたタスク活動が実施されていた
例)値下げ交渉、家族の紹介
- 初めはダイアログの読み上げ、次に単語レベルの置き換え、最後に文章レベルの置き換え



最後に

- ボーイスカウトの「つながり」
- 5団指導者、家族の理解
- スカウト特別海外派遣には挑戦すべき
- スカウトから指導者へ

